

読書のすゝめ

その3

H 31 4 / 12

新任者紹介②

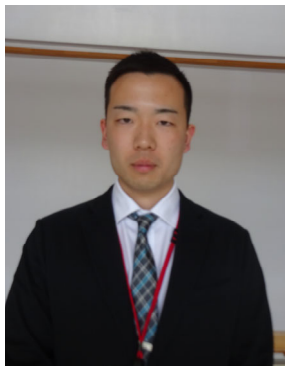
始業式・入学式、そして実力テスト、対面式、オリエンテーション…。2、3年生は授業も始まりました。とにかく「新しい」環境での毎日にくたくたになった一週間ですね。週末に身体と心を休ませて、また月曜日に！



浅野 悟先生（1年2組担任・農業）

『沈まぬ太陽』 山崎豊子

子供の頃は小説を読むことがあまり好きではなかったのですが、山崎豊子作品に出会い、小説を読むことの面白さを知りました。『華麗なる一族』、『不毛地帯』、『白い巨塔』など、山崎豊子作品の多くはドラマ化や映画化されており、ご存知の方も多いかと思えます。特にこの『沈まぬ太陽』は長編で読み応えがあります。正義を貫く者とその家族の受難や、地位や名誉のためには手段を選ばぬ者の栄華には、目を見張るものがあります。小説を読んで、その中の世界に入り込む感覚を覚えたのは、この作品が初めてでした。



栗田 武志 教頭先生

『花まんま』 朱川湊人

作者が2005年に直木賞を受賞した作品で、昭和40年代の大阪を舞台にした短編集です。怪異的な作品ともいわれますが、読んだあとに何か心に温かさが残る作品6編で、特に表題作「花まんま」は心に優しさが残る印象的な作品でした。昭和40年生まれの私にとっては、ノスタルジーを感じる部分が多々あり、共感できました。短編集ですので、短時間で気楽に読むことができます。ぜひお薦めします。



大内 晃先生（3年4組副担

地歴公民）

『孤高の人』 新田次郎 新潮文庫

大学に入学して山岳系のサークルに入りました。登山のことなど何も知らずにハイキングなどという軟弱な言葉にだまされ（？）首を突っ込んだのが運の尽きで、どつぷりとサークル中心の4年間を送ってしまいました。この本はサークルの先輩から勧められた1冊で上下巻を一晚で読破した記憶があります。以降、『強力伝』や『縦走路』『八甲田山死の彷徨』など彼の山岳小説を次々と読みあさりしました。“単独行の加藤文太郎”の孤高な生き様に共感を覚えながらも近づけない自分に悶々とした日々を過ごしたこと覚えて



図書委員募集中！

特別委員会の中に「図書委員」があります。カウンター当番の他に図書の管理として蔵書点検・本の装備、また、POP作成、ビデオバトルの運営などに携わります。県東地区の読書会や中央研修会への参加もできます。県外への文化施設（国立国会国際こども図書館・ジブリ美術館・富岡製糸場など）への〈文学散歩〉も今年で5年目になります。

本好きはもちろん、絵を描いたり、装飾関係が好きなた人を募集しています。クラスでは2名となっていますが、他に希望図書委員として登録しますので、活動に参加してください。